

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 『三絆完遂 夢成就』…学習・クラブ・行事の三つの絆を大切に、バランスの良い人間形成に努め、生徒一人ひとりが生き生きとする学校づくりをめざす。
- 1 これからの社会を生き抜く「強さ」と「優しさ」を併せ持つ幹の太い生徒、そして高い目標を掲げ、その目標に向けて日々努力する生徒を育成する。
  - 2 提案型教員集団を形成し、全教職員一丸となって特色づくりに努め、南河内の普通科改革校としての地歩を固める。
  - 3 保護者・地域との連携を密にし、求められる教育活動を展開することにより、地域に愛され信頼される学校づくりに取り組む。

## 2 中期的目標

## 1 幹の太い生徒の育成

幹 = 人間力 (挨拶、忍耐力、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力、人間関係力、学力、規範意識、成功体験、自尊感情、自立心)

- (1) 分掌、学年、委員会が連携し、さまざまな教育活動を通して、成功体験を積み重ね、自尊感情の高揚を図り、人間力を育成する。
- ア 生活規律の確立に取り組むことにより、高い規範意識を持ち、場を理解し、自らの意思で判断し行動できる生徒を育成する。
  - イ 人権教育を推進し、いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、安心・安全な学校づくりに努める。
  - ウ 様々な講演会や説明会、体験活動等の教育活動を通して、自らの将来を主体的に考える意識を醸成する。また、学校行事やクラブ活動等を含め校内外の様々な教育活動に積極的・主体的に取り組む生徒を育成する。
  - エ 読解力を高め、より深い教養を身につけるよう、学年、分掌、教科、部活動顧問が連携し、読書活動推進に努める。  
生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」(H30:78%)、「学校生活に満足している」(H30:75%)の項目を2021年度には80%以上をめざす。また、「部活動に積極的に参加」の項目は毎年90%(H30:92%)以上を維持する。

## 2 確かな学力の育成

- (1) 学習意欲の向上を図り、自己実現をめざした学力を育成する。
- ア 授業規律を確立し、授業への集中力を高め、学習に向かう意識を向上させる。
  - イ 全学年で学習意欲を向上させ、自学自習の習慣の確立をめざした取組みを推進する。
  - ウ 生徒の現状を把握し、講習や補習等を組織的、計画的に実施する。  
卒業時アンケートによる進路実現への満足度80%(H30:85%)以上を維持する。
- (2) 「記述力、読解力、思考力を高める授業」、「分かりたくなる授業」をめざした授業改革・改善に取り組む。
- ア 次期学習指導要領及び新大学入試に対応した新しい教育課程を策定し、生徒の希望進路実現を叶える授業を展開する。授業アンケート・学校教育自己診断等を実施、分析し、組織的に授業力の向上を図る。
  - イ 習熟度別・進路別少人数授業を行い、きめ細かな授業を展開する。また、授業見学や公開授業などを積極的に行い、振り返りや研究協議などで研鑽を積むことにより授業改善に努め、さらに質の高い授業をめざす。
  - ウ ICT機器及び様々な教育ツールを活用することにより、生徒の興味・関心をさらに引き出し、「分かりやすい授業」から「分かりたくなる授業」へと授業改善を図る。また、今後より求められる記述力、思考力、表現力を高めるため、AL及び協働学習などを取り入れた授業を展開する。  
生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい(H30:65%)」「教え方の工夫(71%)」の項目を2021年度にはどちらも70%以上をめざす。

## 3 特色づくりの推進による学校力の向上

- (1) 近年取り組んできた事業をさらに充実し、学校力を向上させることにより、南河内の普通科改革校としての地歩を固める。
- ア eコース(esperanza:希望、education:教育)の取組みを検証し、生徒ニーズに対応したコースへと発展的改革を行う。
  - イ 実用英語検定資格の取得やGTEC受験に挑戦することにより、進路実現に結びつく力及びグローバル社会を生きる基礎力を養成する。
  - ウ 国際理解教育を推進することにより、異文化理解力と国際感覚を高め、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力などの育成を図る。  
生徒向け学校教育自己診断の「学校生活の満足度(H30:75%)」を2021年度には80%以上をめざす。
- (2) 地域の人材・施設を積極的に活用し、幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を活発に行うことにより、生徒の自己有用感・自尊感情を醸成する。
- ア 生徒主体の河南講座及び運動系・文化系クラブによる中学生との交流や地域の公演活動等への積極的参加など地域交流を拡充する。
  - イ 地域の大学との連携授業等を行い、進路実現への意識向上を図る。
  - ウ 学校だより等の近隣学校への配付及びwebページ掲載により地域及び関係機関等への情報発信に努める。
- (3) 防災マニュアルを充実するとともに安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。  
生徒向け学校教育自己診断における「災害時の行動を具体的に知らされている(H30:74%)」の項目を2021年度には80%以上をめざす。
- (4) 校内業務の精選や外部人材等の活用により、業務負担の軽減を行い、教職員が健康に過ごせる学校づくりに取り組む。

## 4 生徒支援の充実

- (1) 教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携を深め、支援の必要な生徒に適切に対応する。
- ア 課題を抱える生徒の支援のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、生徒情報の共有と組織的な対応を促進する。  
生徒向け学校教育自己診断の「悩みを聞いてくれたり、相談に応じてくれる先生がいる(H30:52%)」の項目を2021年度には60%以上をめざす。
- (2) 3年間を見通した進路指導計画により、系統的なキャリア教育体制を確立する。  
生徒向け学校教育自己診断の「進路についての情報をよく知らせてくれる(H30:82%)」の項目を2021年度には85%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和元年 12 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b>                      生徒向けでは「先生の教え方には、さまざまな工夫がなされている」が75% (H30は71%)、「授業はわかりやすい」が67% (H30は65%)、「進度は適切である」が73% (H30は67%)など、授業に関する評価がどれも上昇した。教員向けでは「生徒は授業に意欲的に取り組んでいるようだ」が68% (H30は65%)のほか、今年度から新たに設けた質問項目「授業を工夫するなどの授業改善を行っている」が90%、「他の教員の授業を見学できる」が71%で、タブレット端末や無線ルータの導入などのさらなる ICT 教育環境の充実や、プロジェクトチームによる公開授業の取組みが追い風となり、授業改善の意識が上昇している実態が見て取れる結果となった。</p> <p><b>【進路指導】</b>                      生徒向けでは「進路や生き方について考える機会がある」が85% (H30は83%)、「進路についての情報をよく知らせてくれる」が87% (H30は81%)、教員向けでは「進路について適切な指導を行っている」が97% (H30は94%)、「一人ひとりに応じて進路選択できるようきめ細かい指導を行っている」が87% (H30は88%)と高い評価であるが、保護者向けでは「進路について適切に指導を行っている」が74% (H30は77%)と差が開いた。懇談などを通じて保護者に伝わる丁寧な指導が求められている。</p> <p><b>【生徒指導】</b>                      生徒向けでは「生活指導に納得できる」が65% (H30は61%)、「集団生活に校則は必要」が77% (H30は74%)、保護者は「生徒指導の方針に共感できる」が69% (H30は71%)、教員は「カウンセリングマインドを持って生徒指導を行っている」が85% (H30は84%)とやや差が開いている。さらに検証が必要と思われる。</p> <p><b>【学校運営】</b>                      今年度は、これまで本校が大切にしてきた「部活動や行事を重視し、幹の太い生徒を育てる」という方針は維持しつつ、大学入試改革や学習指導要領の改訂に乗り遅れない情報収集と発信、対策に取り組んだ。教員向けアンケートで新しく設けた質問項目「教育の諸問題や最新情報を把握し、資質向上に努めている」89%、「様々な研修を通じて研鑽に取り組んでいる」84%のほか、「学校の教育活動について教職員で日常的に話し合っている」82% (H30は78%)など、学校を支える教員集団が熱心に学ぶ姿勢が見られた。今後はその教員力を発揮し、組織としての取組みの工夫につなげていきたい。</p>	<p>第1回 (5月16日)                      学校経営計画の変更点を含めて説明し、承認を受けた。                      ・カリキュラムの改訂により、授業内容やスタイルで河南の特徴を出す必要がある。                      ・eコースの生徒数が減少している。どのように取り組んでいくのか。                      ・「学校生活に満足している」は80%で高いと捉えている。より高くするには、学校になじめない生徒に対してどう関わられるかが大切。</p> <p>第2回 (10月17日)                      教科書採択について                      授業アンケート第1回目について                      今年度のプロジェクトチームの活動について進捗報告                      ・授業アンケートの平均値が高くなったことは喜ばしいが、学年や教員による差が出ないようにしてほしい。                      ・チームの取組みに期待したい。大きな変革期は大きなチャンスのものである。                      ・「育てたい河南生」を明確にして教育課程を編成しようとしているのは非常によい進め方だと思う。</p> <p>第3回 (1月22日)                      授業アンケート第2回について                      学校教育自己診断結果について                      今年度の取組みの振り返り (進路・生徒意識調査・新大学入試PT、新教育課程PT、生徒支援、人権教育等)                      平成31年度学校経営評価と令和2年度学校経営計画について                      自治会生徒との懇談                      ・今学んでいることと将来がどうつながるのか、どう役に立つのか、3年間計画され、1年生から積み上げられているのが大切。                      ・狭義の学力育成については、校内でのコンセンサスが得られてさえいれば、工夫・指導はできるはず。                      ・今年度評価と次年度計画については、年度末の数値・状況を追記し、各委員の意見を伺い改めて承認を得ることとする。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 幹の太い生徒の育成	(1) 人間力の育成 ア 生活規律の確立 イ 人権教育の推進 ウ 特別講演会の開催及び課外活動の充実 エ 読書活動の啓発	(1) ア・生活指導部及び生徒自治会とも連携しながら挨拶の励行や生活規律の確立に努める。 イ・生徒向け人権学習を充実させ、人権意識の向上を図る。 ・カウンセリングマインドをもった対応が図れるよう教職員人権研修を充実する。 ・いじめアンケートを活用し、いじめの早期発見に努め、組織として対応を図る。 ウ・様々な分野で活躍している方を招聘し、「夢をあきらめない」をテーマに講演会を実施する。自らの将来を主体的に考える生徒を育成する。 ・学校行事やクラブ活動等において、生徒の主体的な取組みを引きだし、幹の太い生徒を育成する。 エ・図書系の主導の元に、学年、教科、分掌及びクラブ顧問が連携し、生徒実態に即した読書活動へのアプローチの仕方を考えながら進める。	(1) ア・遅刻件数を2,000件以下にする。(H30:2,057件) ・「集団で過ごすには校則は必要」の項目で前年度以上をめざす。(H30:74%) イ・生徒の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある(H30:77%)」の項目80%以上をめざす。 ・「先生はいじめについて困ったことがあれば真剣に対応してくれる」の項目3%以上の向上。(H30:62%) ウ・特別講演会後のアンケートの肯定的回答90%以上を維持する。(H30:99.8%) ・「部活動に積極的に参加している(H30:92%)」90%以上を維持する。「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている(H30:79%)」の肯定割合80%以上とする。 エ・「月1冊以上の本を読む」生徒を35%以上にする。(H30:33%)	(1) ア・遅刻件数は1,139件と大幅減少。無遅刻無欠席の皆勤生徒も全校で41名増加した。 ・( ) ・「集団生活に校則は必要」は77%( ) イ・人権講演会など実施し「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」は79%( ) ・「いじめについて真剣に対応してくれる」は65%( ) ウ・特別講演会の満足度は98.4%( ) ・「部活動に積極的」は93%( ) ・「学校行事は楽しい」は87%( ) エ・「月1冊以上の読書」は31%にとどまった。( )

<p>2 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 学習意欲の向上 ア 授業規律の確立 イ 学習意欲向上をめざす取組み ウ 多様な取組みによる学習時間の増加</p> <p>(2) 充実した質の高い授業の実践 ア 新カリキュラムの策定 イ 分かりたくなる授業の構築 ウ 授業力向上の取組み</p>	<p>(1) ア・「授業が最大の生徒指導であり、学力向上が第一義」という意識をもち、ベル着・机上整理・授業集中を徹底する。また、予習・復習等の授業準備の必要性を指導する。 ・生徒集会などにおいて注意喚起や啓発を行い、授業に集中することが進路実現につながるという意識の向上を図る。 イ・各学年において生徒の実態に即した学習の取組みを推進し、学習意欲の向上を図る。 ・授業外での学習時間が確保できるクラブ活動の在り方を顧問と協議する。 ・授業及び学年通信や集会などの機会を通じ、自発学習の0時間日をなくすよう啓発し、自学自習の意識の確立を図る。 ウ・生徒の学力推移、進路希望等の情報を学年、教科、分掌間で共有し、希望進路に応じた学習内容、講習等を組織的、計画的に行う。</p> <p>(2) ア・次期学習指導要領を踏まえ、新大学入試制度に対応する教育課程を検討する。 イ・教員向け ICT 研修を充実し、活用教員を増やすことにより、生徒の興味、関心をさらに引き出す授業を展開する。 ・新大学入試制度を鑑み、生徒を鍛え伸ばす授業をめざして、「主体的、対話的で深い学び」について研究を進める。協働学習やグループワーク、プレゼンテーションなどを授業に取り入れ、今後求められる記述力や読解力を高める授業を展開する。また、英語については4技能をバランスよく伸ばす授業展開を進める。 ウ・数学(2年生)と英語(1年生)において、少人数展開授業を実施し、苦手意識のある生徒の減少、得意生徒の学力向上を図る。 ・公開授業を5回実施することにより授業力の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・授業アンケート質問1(H30:2.91)を0.05ポイント向上させ、質問2(3.32)は3.30以上を維持する。 イ・生徒向け意識調査による授業外での学習時間30分以上の生徒70%以上にする。(H30:66.2%) ウ・卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。(H30:85%) ・昨年度並みの進学実績(国公立大学現役10名以上合格、関西難関私立大学現役合格65名以上合格)を維持する。(H30・29平均:13名、71名)</p> <p>(2) ア・教員の「教育活動について教職員で日常的に話し合っている(H30:78%)」の項目を85%以上にする。 ・新しい教育課程の素案を決定する。 イ・生徒の「先生の教え方には様々な工夫がなされている(H30:71%)」「授業はわかりやすい(H30:65%)」の項目についてそれぞれ2%向上をめざす。 ・教員のICT機器活用率90%以上をめざす。(H30:86.3%) ウ・生徒の少人数展開授業に対するアンケートにおける肯定度80%以上をめざす。(H30:93.3%)</p>	<p>(1) ア・授業アンケート質問1は2.94( )、質問2は3.39( ) イ・授業外での学習時間30分以上の生徒は73.2%になった( ) ウ・卒業生アンケートによる進路実現満足度は83.9%( ) ・進学状況は、国公立大学現役6名、関西難関私立大学現役合格54名と減少( )</p> <p>(2) ア・「教育活動について日常的に話し合っている」は82%に上昇した。( ) ・新教育課程についてはPT主導により素案決定( ) イ・「教え方に工夫」は75%( )、「授業はわかりやすい」は67%( ) ・備品タブレットの活用や無線LAN環境の整備など、工夫を重ね生徒満足度も上昇したが、ICT活用率は80.6%( ) ウ・アンケートによる肯定度は、数学が85.8%、英語が92.7%( )</p>
<p>3 特色づくりの推進による学校力の向上</p>	<p>(1) 特色づくりの取り組み充実 ア e コースの発展的改革 イ 資格取得の推進 ウ 国際理解教育の推進</p> <p>(2) 地域および他校種連携の拡充 ア 地域連携および中高交流の進展</p> <p>(3) 災害に強い学校づくり</p> <p>(4) 健康に過ごせる学校づくり</p>	<p>(1) ア・e コースにおける体験学習・高大連携・発展学習を充実させ、進学意識の向上を図る。 ・生徒ニーズを把握し、e コースの在り方を検討する。 イ・実用英語検定またはGTEC4技能検定を1・2年生は全員受験とし、3年生未取得者には英語検定受験を推奨する。 ウ・国際交流委員会を中心に交換留学などを積極的に受け入れ、国際理解教育推進を図る。</p> <p>(2) ア・河南講座やクラブ活動による中高交流等において、生徒主体の地域連携の強化を図る。 イ・看護系希望生徒の大阪府立大学との連携授業、2年生の大阪大谷大学での1日授業体験等の実施により、進学意識の向上を図る。</p> <p>(3) ・南海トラフ大地震を想定した避難訓練マニュアル、大地震発生時アクションカード、生徒引き渡し概要の充実及び生徒安否確認方法を確定する。 ・備蓄品の配備など災害時に対応できる校内環境の整備を図る。</p> <p>(4) ・校内業務の精選を行い、業務の平準化を図る。また、ICT機器及び校務処理システムの活用等により業務の効率化を図る。 ・外部人材の活用やノークラブデー及び一斉退庁日の徹底等により、業務負担を軽減する。</p>	<p>(1) ア・e コース生の教育系大学と国公立大学を合わせた進学希望者80%以上を維持する(H30:86.4%) ・e コース希望者の増加(H30:22名) イ・英検準2級以上の合格者100名以上を維持する(H30:166名) ウ・生徒の国際理解教育に関する肯定度を70%以上で維持する。(H30:71%)</p> <p>(2) ア・クラブによる中高交流10クラブ以上を維持する。(H30:12クラブ106回) イ・卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。(H30:85%)</p> <p>(3) ・生徒の「学校で災害が起こった場合の行動を具体的に知らされている(H30:74%)」の項目を75%以上にする。</p> <p>(4) ・職員の平均時間外労働時間を前年以下の水準にする</p>	<p>(1) ア・e コース生の教育系大学と国公立大学を合わせた進学希望者は75%( ) ・e コース希望者次年度2年生は34名( ) イ・GTEC4技能検定については1年生全員と2年生の一部が受験した。英検準2級以上の合格者は120名( ) ウ・卒業生アンケートによる国際理解教育に関する肯定度は66.8%( )</p> <p>(2) ア・37クラブのうち13クラブが延べ137回の中高交流を実施( ) ・卒業生アンケートによる進路実現満足度は83.9%( )</p> <p>(3) ・「災害時の行動について知らされている」は75%( ) 今年度避難訓練や防災マニュアルの改定などに取り組んだので、さらなる防災安全教育の充実に取り組んでいく。</p> <p>(4) ・3月27日時点で平均30.9時間(前年度末31.9時間)( )</p>

## 府立河南高等学校

4 生徒支援の充実	<p>(1) 教育相談体制の充実 ア 生徒情報の共有と組織的な対応</p> <p>(2) キャリア教育体制の確立</p>	<p>(1) ア・支援を必要とする生徒のために、支援委員会と学年、SC や子ども家庭センター等関係機関との連携を深め、生徒情報の共有と組織的な対応を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒支援のため SSW の活用を図る。</li> <li>・支援委員会を中心に、本校の現状にあった教育相談体制の構築をめざす。</li> </ul> <p>(2) ・3年間を見通した進路指導計画により、的確な進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を支援する。</p>	<p>(1) ア・生徒の「担任以外で気軽に相談できる先生がいる(H30:32%)」の項目を2%向上させる。</p> <p>(2) ・生徒の「進路の情報をよく知らせてくれる(H30:82%)」の項目を2%向上させる。 ・卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。(H30:85%)</p> <p>(1) ア・「相談できる」は46%に上昇( ) 定期的な支援委員会の継続をベースに、教育相談体制が確立、いじめ対策委員会についても計画的に開催し、対策の改善(窓口周知徹底やアンケート方法の改善・事後対応)を行った。 (2) ・「進路情報をよく知らせてくれる」は87%に上昇( ) ・卒業生アンケートによる進路実現満足度は83.9%( )</p>
--------------	--	--	--